

5 ライフステージごとの重点目標と具体的目標値

全体目標

がん患者を含めた市民が、がんを知り、がんの克服を目指す

生活習慣病が健康に及ぼす影響等、がんの予防に関する正しい知識を習得するとともに、がん死亡率減少効果のある検診等の実施により、いつまでも健康で元気に暮らせることを目標とします。

乳幼児期

め
ざ
す
姿

乳幼児期を明るく健やかに過ごすことができ、
地域の中で安心して育児を楽しむことができる

重
点
目
標

1. B型肝炎ワクチン接種の推進

- ・B型肝炎は新生児時期など免疫が不十分な時期に感染すると、長期にわたる持続感染になり、将来、肝硬変から肝がんに進行する恐れがあるため、国の定期接種になっているB型肝炎ワクチン接種を推進していきます。

2. 受動喫煙の防止

- ・妊娠中や乳児期に両親が禁煙していても、子どもの年齢が上がるにつれて、再喫煙する人が増える傾向となっています。受動喫煙による健康被害を防ぐために、両親の喫煙の有無を確認し、喫煙者には禁煙指導を行うことで、乳幼児の受動喫煙を防止していきます。

具
体
的
的
目
標
値

R5
—
R9

I)B型肝炎ワクチン接種率

現状(R2) R9年

96.0% → 97%

II)3歳児健診時の母親の喫煙率

5.0% → 4%

父親の喫煙率

38.1% → 35%

学童・思春期

めざす姿

良好な生活習慣の形成とともに、自分を大切にし、
自立していく準備ができる

重点目標

1. 子宮頸がんワクチン接種の推進

- ・子宮頸がんワクチンは小学校6年生から高校1年生相当の女子に3回接種することになっていますが、平成25年にワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛等が接種後に見られたため、厚生労働省により積極的な接種勧奨が一時差し控えられました。その後ワクチンの安全性について議論がされ、令和4年4月から接種勧奨が再開されました。併せて接種の差し控えにより接種機会を逃した女子に対しても公費で接種できるキャッチアップ接種を行い、対象者が接種できるよう推進していきます。

2. たばこの害の普及啓発、受動喫煙の防止

- ・受動喫煙による健康被害を防ぐために、親世代に対しても禁煙指導を行います。

3. がん教育・普及啓発

- ・教育委員会や学校と連携し、子どもたちにがん教育を行うとともに、親世代にもがん検診の普及啓発を推進していきます。

具体的目標値

R5
—
R9

I) 子宮頸がんワクチン接種率(3回)

| 現状(R3) | R9年 |
|--------|-------|
| 1.8 % | → 60% |

青壮年期・高齢期

めざす姿

自分自身の健康への配慮ができる生活が送れる
健康寿命の延伸を図り、いきいきとした生活を送ることができる

重点目標

1. がん予防の普及啓発

- ・がんによる死亡者の減少のためには、がんの予防とがんの早期発見、早期治療が大切です。がん予防のためには、がん発症の危険が高まる喫煙者を減少させるとともに、自身の健康へ配慮した生活が送れるよう保健指導を行います。

2. がんの早期発見、早期治療

- ・がんの早期発見、早期治療のためには国の指針に基づくがん検診の受診率向上と、精密検査受診率の向上を推進し、適切な医療につながるよう要精密検査者へのサポート体制の充実を図っていきます。

具体的目標値

R5
—
R9

I) 喫煙率

| 現状(R2年度) | R9年 |
|----------|-------|
| 11.1% | → 10% |

II) がん検診受診率

胃がん検診
肺がん検診
大腸がん検診
肝がん検診
子宮がん検診
乳がん検診

| 現状(R2年度) | R9年 |
|-----------|-------|
| 胃 11.3% | → 13% |
| 肺 18.5% | → 25% |
| 大腸 18.9% | → 24% |
| 肝 26.0%※1 | → 30% |
| 子宮 20.2% | → 22% |
| 乳 40.9% | → 41% |

※1:R1年度の数値

III) がん検診精密検査受診率

胃がん検診
肺がん検診
大腸がん検診
肝がん検診
子宮がん検診
乳がん検診

| 現状(R1年度) | R9年 |
|----------|-------|
| 胃 85.5% | → 90% |
| 肺 91.2% | → 92% |
| 大腸 61.8% | → 65% |
| 肝 85.2% | → 90% |
| 子宮 77.3% | → 80% |
| 乳 93.5% | → 94% |